

■湛慶 仏師。運慶の嫡男で、父を継いで慶派の棟梁になり、父に劣らぬ傑作を多数遺した。

たんけい
・ ・ ・ ・ ・ 1173＝ 京都で、運慶の長男に生まれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1182＝ 9歳：

奥州藤原滅亡1189＝16歳：

栄西臨済宗始1191＝18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1197＝24歳：父運慶に協力して、東寺の諸像の修理をし、
・ ・ ・ ・ ・ 1198＝25歳：東寺南大門の「金剛力士」の制作にも協力、

梶原景時征討1200＝27歳：

執権政治始・1203＝30歳：東大寺南大門の「金剛力士・吽形」の制作に従事し、中門「二天像」の西方にも協力。

・ ・ ・ ・ ・ 1208＝35歳：この年から、興福寺北円堂の造仏に参加し、
・ ・ ・ ・ ・ 1209＝36歳：

方丈記・ ・ ・ 1212＝39歳：「持国天像」を担当した。

北条頼権確立1213＝40歳：*京都・法勝寺の九重塔の仏像を造って、最高の僧綱位である法印に叙せられるが、なお表に立つことは無く、父運慶はじめ快慶ら慶派の有力仏師と協働して、それぞれの技能や表現を身につけていく。

栄西没・ ・ ・ 1215＝42歳：後鳥羽院の「逆修」のための「阿弥陀」「弥勒」像、

・ ・ ・ ・ ・ 1218＝45歳：東大寺東塔のための仏像、

運慶没・ ・ ・ 1223＝50歳：快慶と共に、醍醐寺閻魔堂の諸像を造り、地藏十輪院の「増長天像」を制作。_父運慶が死去して、慶派の棟梁になるが、慶派の主体が南都から離れたらしく、奈良での活動は見られなくなる。

親鸞真宗始・1224＝51歳：平岡善妙寺の造像で、自らの作風を打ち出し始め、

北条政子没・1225＝52歳：この頃、*高知・雪隠寺の「木造毘沙門天及び両脇侍立像」、京都・高山寺の「狛犬」、とくに「神鹿」「仔犬」は、それまでに類例のない動物のさりげない一瞬の仕草を捉えた写実的な表現で、万物への慈しみと言う宗教的境地が感じられ、これは高山寺の明恵との交流の中で触発されて育まれたものと推察される。

公家将軍始・1226＝53歳：亡き父母のため、浄蓮華院に、丈六の阿弥陀如来を安置した。

道元曹洞宗始1227＝54歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1236＝63歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1237＝64歳：高野山の大門の「金剛力士像」を造り、明恵が建立した京都平岡の善妙寺の造像にも携わる。

・ ・ ・ ・ ・ 1245＝72歳：

北条時頼執権1246＝73歳：

この間、_京都妙法院蓮華王院(三十三間堂)本堂の「二十八部衆」は、この間に湛慶が造像しているとみられ、稀に見る作風で、そのうちの「婆薮仙人」と「摩和羅女」は、世界的にみても、人間表現の極致になっている。同じく、この寺にある「風神」「雷神」も、彼の作品とみられ、江戸時代初期にこれを見たリチャード・コックスに衝撃を与えている。

・ ・ ・ ・ ・ 1248＝75歳：後嵯峨院の最勝講ため、「四天王像」を制作、

引付衆設置・1249＝76歳：_その妙法院蓮華王院が焼失したため、その復興に尽力、

・ ・ ・ ・ ・ 1251＝78歳：*中尊「千手観音坐像」は、巨像ながら洗練され、左右に林立する千体の「千手観音立像」のうち、九体に銘が残るほか、_父運慶像を制作し、おそらく仏師としては初めての例になる自らの像も制作、そして、「重源上人坐像」も湛慶の手になると考えられ、東大寺を復興したその刻苦を知っていたからこそその傑作と言えよう。重源にならってか、最晩年になって奈良に戻り、

宋船制限・ ・ 1254＝81歳：

北条時頼出家1256＝83歳：_東大寺講堂の本尊「千手観音像」を手掛けるも、未完成のまま、没した。

田中英道「日本美術全史～世界から見た名作の系譜」、Wikipedia、